

海上挺進基地第三大隊
死亡確認書

死亡確認書

海上挺進基地第三大隊

第三中隊 陸軍二等兵 遠藤正元

一 生死不明トナリタル日時場所

昭和十九年十月十日 二十二時三十分頃

油尾縣島尻郡袖山島附近

二 生死不明トナリタル前後状況

昭和十九年十月十日部隊は千島へ通る漁船交関丸(曉

第六一六八部隊徵用船ニシテ部隊配屬中、モ、コ島日ノ

連絡船ヲ前島へ渡嘉敷島間トシテ連絡長山下上等兵

コ乗込マシメ八時三十分渡嘉敷港へ出帆セリム

同港前面域島ヨ南へ廻リ前島西南ニ至リ那月ヲ見大

ニ危険ナリト判断シ一時前島南端附近ニ停船セルモ該方面

ニ危険ナリト判断シ出發同島南端ヨ京ニ向ヒ航行中此

頃ヨリ空襲ナラント知り一應待避スヘク前島東方ノ北向
 二向島北端ニ近キ沖島ニ投銃約四十分間微候ヲ六機ノ然ル
 二敵機來襲ニ微候ナリ且任務ニ基キ長井軍曹ノ出及
 督勵ニ依リ出港ス
 神山島附近ニ至ルヤ那西前市ノ状況愈々明瞭トナリ之ニ
 近接ノ危険ヲ察シ同島近ク投銃ス時三十分頃ナリ
 此頃ヨリ同船ノ敵機ノ攻撃ヲ受ケ尚敵ハ十六時頃ニ神山
 島及附近ニ反復銃撃ヲ受ケ實施スリ幸ナクシテ同島ニ避難ニ
 ル渡嘉敷村兵事主任新城真腹ノ同夜漁舟ニ便乘シ那
 西前ニ至リ海軍根拠地司令部及第三十二軍司令部ニ此狀
 況ヲ報告救助ヲ依頼ス
 山下上等兵・袖山島ニ一夜ヲ明シ十一月十七時頃救助セシ
 那西前ニ至リ十三日歸隊シ兵事主任同月十七日歸村シ
 別冊ニ如ク報告セリ

尚當日乗船者及任務左如ク

業務連絡(入院患者被服取扱方)	陸軍軍曹	長井治
連絡長	陸軍上等兵	山下廣見
入院患者ヲ護送	陸軍衛生上等兵	河野堯衛
患患者	陸軍二等兵	山田胤也
同	同	遠藤正元
同	同	宮川次光
同	同	新城真順

外ニ船長一機長一船員四計十三名

因ニ當日十時十分頃ヨリ渡嘉敷島ニ空襲アリ數機ノ編隊ヲ
 以テ反復銃撃ヲ加ヘ十六時頃迄繼續セリ此為本島及附近
 二在リ船艇ハ悉ク攻撃ヲ受ケ渡嘉敷港ニ入港シ漁船三隻
 炎上沈没シ船員中即死一重傷(同日夜)輕傷一ト出タリ
 三探ルヲ以テ搜索手段

十月十一日三港設電第三四號ヲ以テ那覇出張中、西村大尉ニ交関丸、安否ヲ照會セリ之ニ對シ第三十二軍司令部ヨリ球醫電第三三號ヲ以テ石垣本島各病院並ニ患者療養所ニ收容シラザル者返電アリタリ

十月十二日軍司令部ヨリ球參電第一〇五號ヲ以テ交関丸、神山島附近ニ遺難ヲ傳ハ救助方告知アリタルモ當部隊ニ於テ船艇全部ヲ失ヒ救助不能ニ付軍ニ於テ救助方依頼スルト共ニ其首那覇ニ出張中、西村大尉ニ下命ヲ依頼セリ(三港設電第三七號)十月十三日山下上等兵歸隊同十七日當村兵事主任歸村其報告ニ基キ十月十九日楠原主計中尉以下七名及十月二十日三石准尉以下六名ヲ現地ニ向ハシメ之ヲ搜索ヲ實施セリ尚十月二十日渡嘉敷島ニ壹体トテ三日前島ニ貳体、死体漂着シ檢視シタルモ何レモ當隊ノモノニ非ズ


四、死七確認ノ理由

神山島附近ニ投錨後忽チ敵機ノ攻撃ヲ受ケ即チ各自海ニ投ジタルモ既ニ船ハ錮網ヲ斷ケ漂流シヤリ七八回銃撃後敵機一時去リシノ際長井軍曹、河野上等兵船ニ乗リ積載中ノ木箱ヲ海ニ投ゼリト(山下上等兵船側海中ニテ目撃ス)游泳ニ當リ浮カラ得ントセルモノ如シ此ノ時船長室ニ休養セシメアリ入院途中ノ患者山田三等兵以下三名横臥、儘全身血ニ染ミ在リヲ見タリト謂フ即チ疾病ニ衰弱セル肉體ニ氣力亦伴ハズ遂ニ待避ノ機ヲ失ヒ銃彈ヲ蒙リシナラン敵機再ビ迫リ長井軍曹等海ニ投ジ木箱ニ頼リ岸ニ向ヒタリト當時附近ノ潮流ハ東北流ナルモノ、如ク遭難現場ヨリ島ニ向テ之ニ逆行ヲ免カレズ利ハ浮カラ得ントセシ木箱ハ潮流ハ逆行ヲ益シ阻害ニ爲シ漂流ノ状態ニ在リシモノト察セラル共ニ游泳中ノ山下上等兵ハ徒手ナリシタメ此ノ束縛ヲ免カレタルモノ、如ク避難スルヲ得タ、而シテ潮流儘ニ浮游シヤリシ長井軍曹

河野上等兵ハ爾後數次ニ巨シ銃撃ヲ受ケ遂ニ創痕・タメ
力盡キ海没セシモノナラン尚船上ニ在リシ山田二等兵以下三名
ハ第一回ノ攻撃ヲ受ケシ際受傷身體ノ自由ヲ失ヒ漂流ト共ニ
刻々沈没スル船ト運命ヲ共ニシタルモノト推定ス
右ノ事實ハ生還セシ山下上等兵及渡嘉敷村兵事主任新
城真順ノ報告並ニ搜索ニ當リタル楠原主計中尉及三石准尉
ノ報告書ニ徴シ明カリ即チ前記五名ノ死體ハ發見セザルモ
死セシモノニ相違ナキモノト認ム

右確認ス

昭和十九年十月二十六日

海上挺進基地第三大隊長 鈴木常良 

参考

搜索・タメ採リタル措置

一 三港設電第三四號(十月十一日一七一〇發)

十日八時渡嘉敷發連絡船交関丸ニ依リ入院患者及護送者
等長井軍曹以下六名貴地ニ向ヒタリ到着セリマ遂

(西村大尉宛ニ球第一六七九部隊連絡所氣付)

二 球參電第一〇五號(十月十二日一〇三三受)

昨十日十時三十分頃第三港灣設定隊所屬漁船交関丸ハ神
山島附近ニ於テ敵ノ爆撃ヲ受ケ沈没シ第三大隊入院患者三
名衛生兵三名村役場兵事主任及船員七名計十四名内六名神
山島ニ上陸シ残り八名ハ沈没船ニスガリタルマ、南方ニ漂流中ナル
由村役場兵事主任神山島ヨリ丸木船ニテ那覇ニ上陸報告セリ
至急貴隊ヨリ救助船ヲ派遣シテ度(那覇ニ健在ナル舟艇ナキ

クメ)

三三港設電第三七號(十月十二日球參電第一〇五號返)

當部隊舟艇全部破壊セリ救助困難ニ付貴方ニ救助方取計ハ度 尚當部隊ヨリ軍ニ出張中、西村大尉ニ其旨下命セリ度

四球設電第二二三號(十月十九日二三五八受)

沖繩本島各病院並ニ患者療養所ニ收容シラス

ハ本電ハ那霸出張中、西村大尉軍醫部、調査ヲ依頼セリ返電

五搜索ニ関スル命令

ハ十月十四日 日々命令第四項拔萃

陸軍主計中尉 楠原利家

陸軍一等兵 栗山克己

往路神山島近邊ヲ周廻シ長井軍曹以下五名、行方ヲ搜索ス

細部ハ別ニ指示ス

ハ十月十九日 日々命令第一項

本陸軍准尉 三石節二

陸軍上等兵 山下廣見

十月十日遭難セル漁船「交関丸」搜索ヲ命ズ

依而三石准尉、渡嘉敷村兵事主任及潜水ニ経験アル者

三名ヲ以テ十月二十日神山島附近ニ至、搜索ヲ實施スベシ

細部ニ関シテ別ニ指示ス

寫

神山島附近搜索報告書

昭和十九年十月十九日

於那霸市部隊連絡所

陸軍主計中尉楠原利家印

第三港灣設定隊長鈴木常良殿

十月十九日小官以下七名漁船成田丸及天馬舟一ヨリ交関丸遭難地点ニ至リ搜索ヲ實施セリ其ノ狀況尤、通報告ス

記

一 搜索狀況

十時神山島ニ到着ス、偶々同島西北部淺瀬中央部ニ坐礁セル小漁船ヲ發見先ヅ之ニ至リ搜索スルニ彈痕血痕其他軍人着裝ヲ思ハス何物モナク船名ハ「昭榮丸」ト記シアリタリ
次ニ神山島ヲ各々區署ニ海岸ヨリ陸地一帯ニ亘リ樞互連絡シツツ隅ヲク搜索セルモ何等發見セズ
次デ神山島西南「クエ」島ニ移ル東南部ニ小立アリ之ニ漁

夫、物置兼休憩所、如テ小穴アリテ中ニ網若干アルヲ見テ
リ古キ鉄板ヲ以テ屋根トナシ偽装ヲ施シアリタルモ遭難
者ノ立入りタル形跡察知シ得ズ此邊ニテ敵機銃・藥莢
DM43ヲ發見セリ附近一帶雜草類燃焼シタル形跡アリ
依而綿密ニ搜索セリ此小穴ニ至ル小徑ニ於テ小サキ御
守入レテ一個(中ニ空ニシテ新シキモ小破アリ)捨得セルモ所轄者判
定シ得ズ

次ニ神山島西方「カニマ」島ニ至リ同様丹念ニ搜索ニ
努メタルモ之亦何等發見スルニ至ラズ依而歸途ニ著ク
那霸港着十五時三十分頃ナリ

二 判 法

前記、如ク搜索セルモ何等、手掛リナク長井軍曹以下五名
遭難者、神山島及其附近島嶼ニ上陸セル模様ナク
山下上等兵、當連絡所中迫軍曹ニ爲シタル報告ヲ綜合

スルニ右五名、者、敵、反復攻撃、クク受傷シ沈船諸共
或ハ入水、儘潮流ニ掠レテ遂ニ死亡セシモ、ト推定ス

寫

長井軍曹以下五名ニ對スル遭難現場搜索

狀況報告

昭和十九年十月二十日

陸軍准尉 三石節二印

第三港灣設定隊長鈴木常良殿

十月二十日神山島ニ到リ過般遭難セル交関丸遭難現場附近ヲ實地檢證搜索、結果長井軍曹以下五名、戦死セルヲ確認シ得ベキ事由左記、如シ

一長井軍曹及河野衛生上等兵、敵機來襲ニ際シ數回ニ亘リ猛烈ナル銃撃ヲ受ケタルヲ別紙遭難者狀況報告書、如ク空箱ヲ利用シ避難難セントシタルモ當時海上ニ別紙要圖、如ク潮流ハ北方ヨリ東南ニ向ケテ進ミ、開係上ノ交関丸遭難現場ヨリ神山島及附近諸島ニ避難スルニ、何レモ百五十ル水深、約五米ニシテ、神山島附近諸島ニ避難スルニ、何レモ百五十米乃至二百米、距離ヲ有シ相當、水泳能力ヲ有セザルハ避難スルコトヲ得カル狀況ニシテ、案ズルニ長井軍曹及河野衛生上等兵、

平素水泳、自信ナク爲ニ空箱ヲ利用シ避難セント企テタルモ之、間敵、銃撃ニ依リ受傷、結果身体自由ヲ失ヒ其目的ヲ達セズ遂ニ海中ニ没シ戦死シタルモノト推定セラル

二 別紙遭難者狀況報告書ヨリ遭難當時ニ於ケル狀況ヲ推定スルニ患者三名、敵機來襲ニ際シ受傷、結果身体自由ヲ失ヒ同船々長室ニ立竹籠リタルマ、同船、漂流ト共ニ沈没シ船長室ニ於テ海中ニ没シ戦死セルモノト推定セラル

三 友閘丸遭難現場ヲ搜索セル結果同船錨一個私製夏袴一着船員夏半袴一着海中ニ没シタルヲ発見引揚ゲタル外一物ヲモ見當ラズ

尚神山島及其附近、全島ニ對スル搜索ヲ行ヒタルモ死体又ハ其、他死没者ニ對スル遺留品等、物件ヲ発見セズ

沖

繩

送不日十

郡

慶伊預島

神止島

水深約五米許

大前元海難遺跡

當日於了葛流河向

那部中

那部町

人

風

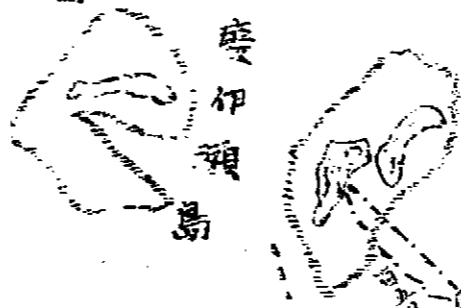
島

島

流

郡

那部島



寫(別冊)

漁船「交關丸」遭難之狀況報告書

一出港日時場所及船名

昭和十九年十月十日八時二十分 渡嘉敷港發 交關丸

二 遭難時刻

昭和十九年十月十日十一時三十分頃

三 場所

那霸市西方約十軒 神山島附近

四 遭難者

豫備役

陸軍軍曹

長井

治

同

陸軍上等兵

山下廣

見

同

同 衛生上等兵

河野堯

衛

第二補充兵役

陸軍二等兵

山田胤也

也

同

同

遠藤正元

元

第二國民兵役

同

宮川次光

光

渡嘉敷村兵事主任

新城真順

順

交關丸船長

新城真順

順

交関丸機関長
同 船員 四名

計 一三名

五 遭難状況

ノ神山島附近ニ至ル迄ノ状況(別紙要因)

十月十日八時二十分渡嘉敷港ヲ出発シ前島南西附近ニ出ルト那覇市ガ空襲ガレテ居ル状況が見ラレ一應前島南端附近ニ約十五分間停船シテ様子ヲ宥視ヒマシクガ此ノ方面ニ対シテハ危険ガナイモノト思ハレタノデ長井軍曹ガ出發ヲ促シ前島南端ヲ東ニ向ヒマシクスト那覇市空襲ノ様相ハ一層激甚ノ様ニ見エタノデ同島東方ヲ迂回シテ同島北端ニ在ル沖島ニ約四十分間投錨シマシク然レ敵機ハ飛來ノ徴候ナク又同島ヲ出發シテ那覇ニ向ヒマシク神山島附近迄來ルト那覇市上空ニ高射砲彈ノ炸裂スルガ見受ニテ危険ヲ感ジタノデ神山島ニ避難スベク陸地ヨリ約三百米沖合ニ投錨シマシク

此ノ頃ガ十一時三十分頃ト思ヒマス

ノ空襲ノ状況及行動ノ概要

ノ山下上等兵

偶々飛行機二機ガ頭上ヲ旋回シテホマシクガ彼我判明セズ二回目ノ旋回トキ其標識ヲ見テ敵機ト知リ「敵機々々」ト連呼シマシク此ノ時又那覇市方向ガ三機以上ノ敵機ハ低空ヲ銃撃ヲ始メタノデ全員海ニ飛込ニ銃撃ヲ都度水中ニ逃ンデ難ク避ケマシク約七八回銃撃ヲ後一時敵機ハ去ツタノデ自分等ハ船ニ近寄リ長井軍曹ト河野上等兵ハ船ニホリ木製ノ空箱ニ海ニ投テホマシク此ノ時長井軍曹ハ二等兵三名ガ船長空ヲ取死シマシクト言ハレマシク

(第一回銃撃ノ時船ハ二等兵三名及船員二名並ニ船長等殘リタル模様ナルモ船長ハ不明)此ノ頃又敵機ガ來タノデ長井軍曹等二名ハ海ニ飛込ニ空箱ニ頼リテ岸ニ向ヒ泳ギマシク船員等ハ其ノ時六十米程前ニ島ニ向ツテ泳イデホマシク船ヲ離レテ三十米程泳イダ頃カラ銃撃ヲ受ケ水中ニ姿ヲ隠

シテ難ヲ避ケツ、島ニ向ヒミシタガ此、間ニ右ニ左ニ流サレ三八、間ハ次第ニ
開ケ然モ自命ハ海水ヲ多量ニ飲ミ泳グコトガ精一杯デシタ、テ他ヲ見ル
違モナク遂ニ長井軍曹ヲ河野上等兵ヲ見失ヒマシタ、自命ハ幸ウゲテ島
ニ着キ海面ヲ見マシタガ右ニ名、姿ハ見ヘズ海面ニ空相モ見當ラズノ
テ先ニ上陸シタカ又ハ斃死シタモ、ト相像シマシタ敵、那霸市空襲、後
河度トナク來襲シマシタガ林、中ニ避難シテ居タ、テ無事デシタ自命ハ先
ニ上陸シタ船員三名ト一緒ニナリ其、一名、負傷者ニ自命、腹巻ヲ脱シテ
手當ヲ共ニ附近、草ノ中ニ遠散シテ時ヲ過シマシタ
十七時頃空襲ハ全ク止ミタ、テ狀況ヲ見ヨウト思ツテ海岸ニ出マシタ此、時
更ニ一名、船員ニ會ヒ体具合ガ悪イ様子ナ、テ自命、左足ニ残リテイタ
巻脚絆ヲ以テ腹巻ヲ巻イテヤマシタ他、三名モ瀆ニ出テ五人デ連絡方法
ヲ協議シテ居ル内ニ暗クナリマシタ、テ度同島ニ避難シテ居マシタ、漁夫
六七名ニ合ヒ那覇側へ、連絡ヲ交渉シマシタガ要領ヲ得ズ其、中彼等ハ
刻舟ニ依リ那覇方面ニ歸リマシタ

此、島ニ自命等ヨリ先ニ海軍、遭難者ガ六名(二名、軍人ニシテ其、内一名ハ即
死他、重傷同夜死亡ス外ニ軍属ト認メラル、四名)居リ自命等ト共ニ綱小屋
ニ入り寝マシタ之ヨリ前夕方同島(神山島)ニ個、島ヨリ成リ東西ニ分レ
アリ山下上等兵、西側、島ニ上陸ス、コ廻リ長井軍曹及河野上等兵ヲ探
シマシタガ見當ラセシデシタ尚船員、負傷者ハ兵事主任等ト共ニ那覇側
ニ向ヒ出発シタコトヲ聞キマシタ、綱小屋ニ一夜ヲ明シテ十一日ハ救助、來ル
ヲ待ツテ居タ所十七時頃一船員(避難中、者)父ガ十四、五才、男子ヲ
連レ刻舟デ來マシタ、テ之ニ自命ト船員四名ガ乘リ那覇市南方、某國
民學校下ニ着キ自命ハ部隊連絡所ニ行クタメ船員等ト別シマシタ
連絡所ハ焼失シテ牧志町方面ニ移轉シタコトヲ知り同町附近ヲ探シマシタガ判ラズ
ノテ附近ニ居タ憲兵隊ニ行キ其、指示ヲ受ケ其、夜、其處ニ寝マシタ
十二日朝牧志町ニ内會長、家ニ行キ連絡所ヲ聞キマシタガ主人ガ不在、タメ
判リマセシデシタ其、時家、人ガ裸体ヲ居ル自命ニ縋絆ヲ呉レマシタ
連絡所不明、タメ舊連絡所附近ヲ確メヤウト思ヒ歸リカケタ時一名兵

會ヒ夫レガ連絡所、兵ダツク、デ一緒ニ部隊連絡所ニ行キ中迫軍曹以上
、状況ヲ報告シミシク、當日ハ同所ニ休養シ翌一三日十時那霸出發大發
船ヲ歸隊シミシク

口新城兵事主任

神山島沖合ニ投錨後間モナク敵機、銃撃ヲ始メテ「海ニ飛込」ト叫
ビナガラ自分モ海ニ入りマシタ銃撃ガ一時止ンダトキ船側ニ歸ッテ見ルト兵三名
ガ船長室ヲ血ニ染ミリ動カズニ居タ、デ即死ト思ヒミシク此、時長井軍曹
ハ船カラ空箱ヲ海中ニ投ゲテ居リマシタガ言葉ヲ交ス違モナク更ニ銃撃
ヲ始メタ、デ兵隊、中ニ水泳不能、者モアルコト、思ヒ濱近クニアル舟ヲ見
付ケ之ニ向ツテ泳ギマシタガ其、舟ニ海軍、遭難者ガ數名居テ内一名
ハ即死他一名ハ重傷シテ居シタ、デ其、儘陸ニ向ヒマシタ此、船振、返リ
ツ、船ヲ見ミシタガ最初、銃撃ヲ受テ錨綱ヲ切ラレ沈ミナガラ南方ニ約
三百米程漂流シテ遂ニ沈没シ僅ニ船長室、上部が見エテマシタ
初メ、敵機ハ約三十分間反復銃撃ヲ加ヘテ何處カへ去リマシタガ其、後那

覇(空襲)都度繰返シ攻撃ニシテ來マシク、デ島、林、中ニ避難シテ
居マシタ日没後獨り同島ニ避難シテ居ル漁夫ニ會ヒニ交渉シテ刻
舟ヲ那覇ニ連絡ニ行コトニシマシタ、當時此、島ニ上陸シタモノハ自分
、他ニ機関長ト船長、弟、三人ト思ツテ居マシタガ他、船員ニ會ヒ
上陸シテ居ル者ハ上等兵一(山下上等兵)船員四(前記ヲ見傷者ヲ
含ム)デアルコトヲ知リマシタ

軍曹ト衛生上等兵ト船長、消息ハ不明デニ等兵三名ハ即死シ
タコト、思ヒマシタ日没後刻舟ニ五名(自分ト機関長及負傷セル
船員並ニ漁夫ニ同乗スル者ニ被射、來ルヲ待ツレテ那覇
市ニ連絡ニ向ヒマシタ那覇市垣、花園國民學校下ニ到着シ負傷者
ハ丁度來合セタ海軍士官、厚意ニ依リ「トラック」ニ乗セ小繰、農
事試験場ニ在海軍根據地病院ニ入院サセマシタ

其、夜負傷者、家族ニ此、事ヲ傳ハヨウトシマシタガ駄目デシタ
機関長、那覇市到着後家族、安否、氣遣ツキ自定ニ般シ

テ行キマシタ自分ハ神山島ニ避難セル者、救助方ヲ頼ムタノ各所聞合テ後海軍根據地司令部ニ行キ之ヲ頼ミマシタ此時十時頃(十月十一日)ダツクト思ヒマス夫ヨリ西原ニ住ム叔父ノ家ニ行ク途中球部隊本部ニ寄リ村ノ船ノ状況等ノ電報ヲ依頼シマシタ其ノ日夕方高地ニ登リ神山島ヲ見ルト刻舟一隻及漁舟一隻ガ其ノ島ニ見エタテ救助ノ舟ダト思ヒ安心シマシタ其ノ後用事モ終リマシタテ球第一六七九部隊ノ連絡所ヲ探シ十六日晝頃連絡所ニ行キ其ノ給養ヲ受ケナガラ業務ヲ援助シ十七日朝那霸發漁船光勇丸ヲ飯村ニマシタ

六 結局本遭難ニ依ル状況ハ前記ノ通りテ自分等ノ目撃者ニテ範圍テハ左記ノ者ハ銃撃ニ依リ即死或ハ負傷シ力盡キテ海中ニ沈ニダモノト思ヒマス

豫備役

陸軍軍曹

長井 治

豫備役	陸軍衛生上等兵	河野 堯 衛
第二補充兵役	陸軍二等兵	山田 胤 也
同	同	遠藤 正 元
第三國民兵役	同	宮川 次 光
	交開丸船長	

計六名

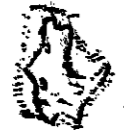
右ノ通り状況ヲ報告致シマス

昭和十九年十月十七日

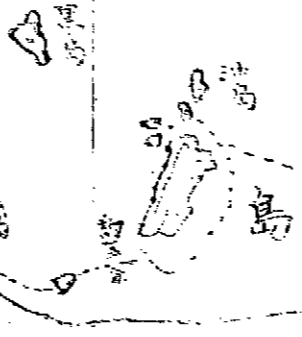
右

山下 廣 見 (印)
新城 真 順 (印)

丁



1
207

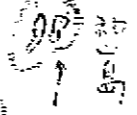


島

島

島
島
島

島
島
島



島



島

島

尾

—— 島
- - - 島

沖

死亡確認書

死亡確認書

海上挺進基地第三大隊
第中隊 陸軍二等兵 遠藤正元

一 生死不明トナリタル日時場所

昭和十九年十月十日十一時三十分頃

沖繩縣島尻郡神山島附近

二 生死不明トナリタル前後状況

昭和十九年十月十日部隊、平常通り漁船交関丸(曉

第六一六八部隊徵用船ニシテ部隊配屬中、モ、ヨ當日、

連絡船(那覇)一渡嘉敷島間)トシテ連絡長山下上等兵

ヨ乗込マシメ八時三十分渡嘉敷港ヨ出帆セシム

同港前面城島ヨ南ニ廻リ前島西南ニ至リ那覇市ニ異状

アリシ情況ヲ眺望シ一時前島南端附近ニ停船セシモ該方面

ニ危険ナシト判断シ出發同島南端ヨ東ニ向ヒ航行中此

頃ヨリ空襲ヲラント知り一應待避スベク前島東方北向
 同島北端ニ近キ沖島ニ投銃約四十分間微候ヲ覚ル然レ
 ニ敵機來襲ニ微候ナリ且任務ニ基キ長井軍曹ノ出立及
 督勵ニ依リ出港セリ
 神山島附近ニ至ルマ那覇市ノ状況愈々明瞭トナリ之ニ
 近接シ危険ヲ察シ同島近キ投銃ス時ニ十一時三十分頃ナリ
 此頃ヨリ同船敵機ノ攻撃ヲ受ク尚敵ハ十六時頃マ神山
 島及附近ニ反復銃撃ヲ空軍施セリ幸ナシテ同島ニ避難ニ
 渡嘉敷村兵事主任新城真順同夜漁舟ニ便乘シ那
 覇ニ至リ海軍根據地司令部及第三十二軍司令部ニ此狀
 況ヲ報告救助ヲ依頼ス
 山下上等兵・袖山島ニ一夜ヲ明シ十一月十七時頃救助セリ
 那覇ニ至リ十三日歸隊シ兵事主任同月十七日歸村シ
 別冊ニ如ク報告セリ

尚當日・乗船者及任務者如シ

業務連絡(入院患者被服取扱方)	陸軍軍曹	長井治
連絡長	陸軍上等兵	山下廣見
入院患者看護送	陸軍衛生上等兵	河野堯衛
患者	陸軍二等兵	山田胤也
同	同	遠藤正元
同	同	宮川次光
渡嘉敷村兵事主任	同	新城真順

外ニ船長一機腰長一船員四計十三名

因ニ當日十時十分頃ヨリ渡嘉敷島ニ空襲アリ敵機編隊ヲ
 以テ反復銃爆撃ヲ加ヘ十六時頃迄継続セリ此為本島及附近
 ニ在リシ船艇ハ悉ク攻撃ヲ受テ渡嘉敷港ニ入港シ漁船三隻
 炎上沈没シ船員中即死一重傷(同日死シ)輕傷一ト出シ
 三採リタル搜索手段

十月十一日三港設電第三四號ヲ以テ那覇出張中、西村大尉
ニ交関凡、安否ヲ照會スル之ニ對シ第三十二軍司令部ヨリ球
醫電第三三三號ヲ以テ三港本島各病院並ニ患者療養所ニ
收容セラルザル旨返電アリタリ


十月十二日軍司令部ヨリ球參電第一〇五號ヲ以テ交関凡、神山島
附近ニ遺難ヲ傳ハ、救助方告知アリタルモ當部隊ニ於テ船艇
全部ニ矢ト救助不能ニ付軍ニ於テ救助方依頼スルト共ニ其旨
那覇ニ公張中、西村大尉ニ下命ヲ依頼セリ(三港設電第三三三號)
十月十三日山下上等兵歸隊同十七日當村兵事主任歸村其
報告ニ基キ十月十九日植原主計中尉以下七名及十月二十日
三石准尉以下六名、現地ニ向ハレタリ之ヲ搜索ヲ實施セリ尚十月
二十日渡嘉敷島ニ壹体十月二十三日前島ニ貳体、死体漂着
シ檢視シタルモ何レモ當隊ノモノニ非ズ
四、死亡確認、理由

神山島附近ニ投錨後忽チ敵機、攻撃ヲ受テ即チ各自海ニ投
ジタルモ既ニ船ハ錙細ヲ斷テ漂流シテ七八回銃撃後敵
機一時去リシレ階長井軍曹、河野上等兵船ニ上リ、備々積載中
ノ木箱ヲ海ニ投ゼリト(山下上等兵船側海中ニ目撃手ス)游泳
ニ當リ浮カテ得ニトセルモノ如シ此、時船長室ニ休養セシメ
アリシ入院途中、患者山田三等兵以下三名横臥、儘全身血
ニ染ミ在ルヲ見テ謂フ、即チ疾病ニ衰弱セル肉體ニ氣力
亦伴ハズ遂ニ待避ノ機ヲ失シ銃彈ヲ蒙リシナラン 敵機兩ビ
迫リ長井軍曹等海ニ投ジ木箱ニ頼リ岸ニ向ヒタリト
當時附近、潮流ハ東北流ナルモノ、如ク遺難現場ヨリ島ニ向
之ニ逆行ヲ免カレズ利ハ浮カテ得ニトセル木箱ハ潮流ハ逆行
ヲ益々阻害シ爲ニ漂流ノ状態ニ在リシモノト察セラル共ニ游
泳中、山下上等兵ハ徒手ナリシヲ此、束縛ヲ免カレタルモノ
如ク避難スルヲ得タリ、而シテ潮流、儘ニ浮游シテ長井軍曹

河野上等兵ハ爾後數次ニ巨ク銃撃ヲ受ケ遂ニ創痕ヲメ
力盡キ海没セシモノナラン尚船上ニ在リシ山田二等兵以下三名
ハ第一回ノ攻撃ヲ受ケシ際受傷身體ノ自由ヲ失ヒ漂流ト共ニ
刻々沈没スル船ト運命ヲ共ニシタルモノト推定ス
右ノ事實ハ生還セシ山下上等兵及渡嘉敷村兵事主任新
城真順ノ報告並ニ搜索ニ當リタル橋原主計中尉及三石准尉
ノ報告書ニ徴シ明カリ即チ前記五名ノ死體ハ發見セザレモ
死七セルニ相違ナキモノト認ム

右確認ス

昭和十九年十月二十六日

海上挺進基地第三大隊長 鈴木常良 

參考

搜索ノタメ採リタル措置

一三港設電第三四號(十月十一日一七一。發)

十日八時渡嘉敷發連絡船交關丸ニ依リ入院患者及ヲ護送者
等長井軍曹以下六名貴地ニ向ハシタリ到着セザル迄

(西村大尉宛ニ球第一六七九。部隊連絡所氣付)

二球參電第一。五號(十月十二日一〇三。受)

昨十日十時三十分頃第三港灣設定隊所屬漁船交關丸由
山島附近ニ於テ敵ノ爆撃ヲ受ケ沈没シ第三大隊入院患者三
名衛生兵三名村役場兵事主任及船員七名計十四名内六名神
山島ニ上陸シ残り八名ハ沈没船ニスガリタルマ、南方ニ漂流中ナル
由村役場兵事主任神山島ヨリ丸木船ニテ那霸ニ上陸報告セリ
至急貴隊ヨリ救助船ヲ派遣サレ度(那霸朝ニ健在ナル舟艇ナキ)

夕)

三三港設電第三七號(十月十二日球參電第一。五號返)

當部隊舟艇全部破壊セリ救助困難ニ付貴方ニ救助方取計ハ度 尚當部隊ヨリ軍ニ出張中、西村大尉ニ其旨下命セリ度

四球設電第二三三號(十月十九日二三三五八受)

沖繩本島各病院並ニ患者療養所ニ收容シヤラス

(本電ハ那霸出張中、西村大尉軍醫部、調査ヲ依頼セ返電)

五搜索ニ関スル命令

ハ十月十四日 日々命令第四項拔萃

陸軍主計中尉 楠原利家

陸軍一等兵 栗山克己

往路神山島近邊ニ周廻シ長井軍曹以下五名、行方ヲ搜索スヘシ

細部ハ別ニ指示ス

乙十月十九日 日々命令第一項

本陸軍准尉 三石節二

陸軍上等兵 山下廣見

十月十日遭難セル漁船「交関丸」搜索ヲ命ズ
依而三石准尉、渡嘉敷村兵事主任及潜水ニ経験アル者三名ヲ以テ十月二十日神山島附近ニ至リ搜索ヲ實施スヘシ
細部ニ関シテ別ニ指示ス

寫

神山島附近搜索報告書

昭和十九年十月十九日

於那霸市部隊連絡所
陸軍主計中尉楠原利家印

第三港灣設定隊長鈴木常良殿

十月十九日小官以下七名漁船成田丸及天馬舟一以テ交關丸遭
難地点ニ至リ搜索ヲ實施セリ其ノ狀況尤ノ通報告ス

記

一 搜索狀況

十時神山島ニ到着ス偶々同島西北部淺瀬中央部ニ坐礁セル
小漁船ヲ發見先ツ之ニ至リ搜索スルニ彈痕血痕其他軍
人着装ヲ思ハス何物モナク船名ハ「昭榮丸」ト記シアリタリ
次ニ神山島ヲ各々區署ニ海岸ヨリ陸地ニ至リ相互連絡
シツツ隅ヲク搜索セルモ何等發見セズ
次デ神山島西南ヨリエラ島ニ移ル東南部ニ小丘アリ之ニ漁

夫、物置兼休憩所、如テ小穴アリテ中ニ網若干アルヲ見テ
リ、古キ鉄板ヲ以テ屋根トシ、偽装ヲ施シアリタルモ、遭難
者ノ立入りタル形跡察知シ得ズ、此邊ニテ敵機銃、藥莖
DM43ヲ發見セリ、附近一帶雜草類、燃燒シタル形跡アリ
依而綿密ニ搜索セリ、此、小穴ニ至ル小徑ニ於テ、小ヤキ御
守入レテ一個(中ハ空ニシテ新シキモ小破アリ)捨得セルモ所持者判
定シ得ズ

次ニ神山島西方「カニマ」島ニ至リ同様丹念ニ搜索ニ
努メタルモ之亦何等發見スルニ至ラズ依而歸途ニ著ク
那霸港着十五時三十分頃ナリ

二判決

前記、如ク搜索セルモ何等、手掛リナク長井軍曹以下五名
、遭難者、神山島及其附近島嶼ニ上陸セル模様ナク
山下上等兵、當連絡所中迫軍曹ニ爲シタル報告ヲ綜合

スルニ右五名、者ハ敵、反復攻撃、タム受傷シ沈船諸共
或ハ入水、儘潮流ニ掠リ、遂ニ死亡セシモノト推定ス

寫

長井軍曹以下五名ニ對スル遭難現場搜索
狀況報告

昭和十九年十月二十日

陸軍准尉 三石節二(印)

第三港灣設定隊長鈴木常良殿

十月二十日神山島ニ到リ過般遭難セル交開丸遭難現場附近ヲ實
地檢證搜索、結果長井軍曹以下五名、戦死セルヲ確認シ得ベ
キ事由左記、如シ

一長井軍曹及河野衛生上等兵、敵機來襲ニ際シ數回三巨リ猛
烈ナル銃撃ヲ受ケタルメ別紙遭難者狀況報告書、如ク空箱ヲ
利用シ避難セントシタルモ當時海上ハ別紙要圖、如ク潮流ハ
北方ヨリ東南ニ向ケテ進ミ、開係上交開丸遭難現場ヨリ神
山島及附近諸島ニ避難スルコトヲ得ズ、尙ハ敵機ハ附近諸島
ル水深約五米ニシテ神山島附近諸島ニ避難スルハ何レモ百五十
米乃至二百米、距離ヲ有シ相當ノ水泳能力ヲ有セザレバ避難スル
コトヲ得ザル狀況ニシテ案ズルニ長井軍曹及河野衛生上等兵ハ

平素水泳、自信ナク爲ニ空箱ヲ利用シ避難セント企テタルニ
之、間敵、銃撃ニ依リ受傷、結果身体、自由ヲ失ヒ其目的ヲ
達セス遂ニ海中ニ没シ戦死シタルモ、ト推定セラル

ニ 別紙遭難者状況報告書ヨリ遭難當時ニ於ケル状況ヲ推定スル
ニ 患者三名、敵機來襲ニ際シ受傷、結果身体、自由ヲ失ヒ同
船々長室ニ立竹籠リタルマ、同船、漂流ト共ニ沈没シ船長室ニ於
ニ海中ニ没シ戦死セルモノト推定セラル

三 交開丸遭難現場ヲ搜索セル結果同船錨一個私製夏袴
下一着船員夏半袴一着海中ニ没シタルヲ発見引揚ゲタル
外一物ヲモ見當ラズ
尚神山島及其附近、全島ニ對スル搜索ヲ行ヒタルモ死体又
其、他死没者ニ對スル遺留品等、物件ヲ發見セス

沖

繩

島ノ十

郡

伊
親
島

神山島

島ノイ

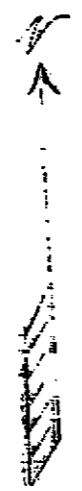
文前丸遺跡現場

水深約五米程

當日於了流方向

那羅

赤濱町



島

島

沖島
那羅
島

赤石島



寫(別冊)

漁船「交開丸」遭難之関スル狀況報告書

一出港日時場所及船名

昭和十九年十月十日八時二十分 渡嘉敷港發 交開丸

二 遭難時刻 昭和十九年十月十日十一時三十分頃

三 場所 那霸市西方約十軒 神山島附近

四 遭難者

豫備役

陸軍軍曹

長井

治

同

陸軍上等兵

山下廣

見

同

同 衛生上等兵

河野堯

衛

第二補充兵役

陸軍二等兵

山田胤也

也

同

同

遠藤正元

元

第二國民兵役

同

宮川次光

光

渡嘉敷村兵亭主任

新城真順

順

交開丸船長

交関丸機関長
同 船員 四名

五 遭難状況

神山島附近ニ至ル迄ノ状況(別紙要圖)

十月十日八時三十分渡嘉敷港ヲ出発シ前島南西附近ニ出ルト那覇市が空襲ヤレテ居ル状況が見ラレ一應前島南端附近ニ約十五分間停船シテ様子ヲ窺ヒマシタガ此ノ方面ニ対シテハ危険ガナイモノト思ハレタノデ長井軍曹が出發ヲ促シ前島南端ヲ東ニ向ヒマシタスト那覇市空襲ノ様相ハ一層激甚ノ様ニ見エタノデ同島東方ヲ迂回シテ同島北端ニ在ル神山島ニ約四十分間投錨シマシタ然レ敵機ハ飛來ノ徴候ナク又同島ヲ出發シテ那覇ニ向ヒマシタ神山島附近迄來ルト那覇市上空ニ高射砲彈ノ炸裂スルガ見受レテ危険ヲ感ジタノデ神山島ニ避難スベク陸地ヨリ約三百米沖合ニ投錨シマシタ

此ノ頃ガ十一時三十分頃ト思ヒマス
ノ空襲状況及行動ノ概要

山下上等兵

偶々飛行機ニ機が頭上ヲ旋回シテキマシタガ彼我判明セズニ回目ノ旋回トキ其標識ヲ見テ敵機ト知リ「敵機々々」ト連呼シマシタ此ノ時又那覇市方向カラ三機以上ノ敵機ハ低空ヲ銃撃手ヲ始メタノデ全員海ニ飛込ミ銃撃手都度水中ニ沈ンデ難ク避ケマシタ約七八回銃撃手後一時敵機ハ去ツノデ自分等ハ船ニ近寄リ長井軍曹ト河野上等兵ハ船ニモリ木製空箱ヲ海ニ投テマシタ此ノ時長井軍曹ハ二等兵三名ガ船長空ヲ即死シキルト言ハレマシタ

(第一回銃撃手ノ時船ニハ二等兵三名及船員二名並ニ船長等殘リタル模様ナルモ船長ハ不明)此ノ頃又敵機が來タノデ長井軍曹等二名ハ海ニ飛込ミ空箱ニ頼ツテ岸ニ向ヒ泳ギマシタ船員等其ノ時六十米程前ノ島ニ向ッテ泳イデマシタ船ヲ離レテ三十米程泳イダ頃カラ銃撃ヲ受ケ水中ニ姿ヲ隠

シテ難ヲ避ケツ、島ニ向ヒミタガ此、間ニ右ニ左ニ流サレ三八、間ハ次第ニ
開ケ然モ自分ハ海水ヲ多量ニ飲ミ泳グコトガ精一杯デシタノテ他ヲ見ル
邊モナク遂ニ長井軍曹ヤ河野上等兵ヲ見失ヒミタガ自分ハ辛ウゲテ島
ニ着キ海面ヲ見ミタガ右ニ名ノ波ハ見ヘズ海面ニ空相モ見當ラズノ
テ先ニ上陸シタカ又ハ斃死シテモト相像シマシタ敵ハ那覇市空襲ノ後
何度トナク來襲シマシタガ林中ニ避難シテ居タデ無事デシタ自分ハ先
ニ上陸シタ船員三名ト一緒ニナリ其一名ノ負傷者ニ自分ノ腹巻ヲ脱シテ
手當ヲシ共ニ附近ノ草ノ中ニ遠避キテ時ヲ過シマシタ
十七時頃空襲ハ全ク止ダノテ状況ヨ見ヨウト思ツテ海岸ニ出マシタ此、時
更ニ一名ノ船員ニ會ヒ体具合ガ悪イ様子ナド自分ハ左足ニ残ッテイタ
巻脚絆ヲ以テ腹巻ヲ巻イキヤマシタ他、三名モ濱ニ出テ五人ヲ連絡方法
ヲ協議シテ居ル内ニ暗クヤリマシタ下度同島ニ避難シテ居マシタ 漁夫
六七名ニ合ヒ那覇側ヘ連絡ヲ交渉シマシタガ要領ヲ得ズ其ノ中彼等ハ
刻舟ニ依リ那覇方面ニ歸リマシタ

此、島ニ自分等ヨリ先ニ海軍ノ遭難者ガ六名(二名ノ軍人ニシテ其ノ内一名ハ即
死他ノ重傷同夜死シタ外ニ軍属ト認メラル、四名)居リ自分等ト共ニ調小屋
ニ入り寝マシタ之ヨリ前夕方同島(神山島)ニ個ノ島ヨリ成リ東西ニ分レ
アリ山下上等兵、西側ノ島ニ上陸スヲ廻リ長井軍曹及河野上等兵ヲ探
シマシタガ見當ラセシデシタ尚船員ノ負傷者ハ兵事主任等ト共ニ那覇側
ニ向ヒ出登レタコトヲ聞キマシタ 調小屋ニ一夜ヲ明シテ十一日ハ救助來ル
ヲ待ツテ居タ所十七時頃一船員(避難中ノ者)ノ父ガ十四、五才ノ男子ヲ
連レ刻舟デ來マシタノデ之ニ自分ト船員四名ガ乗リ那覇市南方ノ某團
民學校下ニ着キ自分ノ部隊連絡所ニ行クタメ船員等ト別レシタ
連絡所ハ燒失シテ牧志町方面ニ移轉シタコトヲ知リ同町附近ヲ探シマシタガ判ラヌ
ノテ附近ニ居タ憲兵隊ニ行キ其ノ指示ヲ受ケ其ノ夜ハ其處ニ寝マシタ
十二日朝牧志町内會長ノ家ニ行キ連絡所ヲ聞キマシタガ主人ガ不在ノタメ
判リマセシデシタ其時家ノ人ガ裸体デ居ル自分ハ縋絆ヲ突レマシタ
連絡所不明ノタメ舊連絡所附近ヲ探シマシタガヤウト思ヒ歸ルヘリカケタ時一名兵

會ヒ夫レガ連絡所、兵ダツタ、テ一緒ニ部隊連絡所ニ行キ中迫軍曹以上
ノ状況ヲ報告シマシタ、當日ハ同所ニ休養シ翌三日十時那霸出發、大發
船デ歸隊シマシタ

口新城兵事主仕

神山島沖合ニ投錨後間モナク敵機、銃撃ヲ始マツタ、海ニ飛込ビト叫
ビナガラ自分モ海ニ入リマシタ、銃撃ガ一時止シタトキ船側ニ歸リ見ルト兵三名
ガ船長室デ血ニ染マリ動カズニ居タ、デ即死ト思ヒマシタ、此ノ時長井軍曹
ハ船カラ空箱ヲ海中ニ投ゲテ居リマシタガ言葉ヲ交ス違モナク更ニ銃撃
ヲ始メタ、デ兵隊ノ中ニ水泳不能ノ者モアルコト、思ヒ濱近クニアル舟ヲ見
付ケ之ニ向ツテ泳ギマシタガ其ノ舟ニ海軍ノ遭難者ガ數名居テ内一名
ハ即死他一名ハ重傷シテ居リマシタ、デ其ノ儘陸ニ向ヒマシタ、此ノ間振返リ
ツ、船ヲ見マシタガ最初ノ銃撃ヲ受ケ錨綱ヲ切ラレ沈ミナガラ南方ニ約
三百米程漂流シテ遂ニ沈没シ僅ニ船長室ノ上部が見エテマシタ
初メ敵機ハ約三十分間反復銃撃ヲ加ヘテ何處カへ去リマシタガ其ノ後那

覇(空襲)都度繰返シ攻撃シテ來マシタ、デ島ノ林中ニ避難シテ
居マシタ、日没後獨々同島ニ避難シテ居リ漁夫ニ會ヒニ交渉シテ刻
舟デ那覇ニ連絡ニ行コトニシマシタ、當時此ノ島ニ上陸シタモノハ自分
、他ニ機関長ト船長、弟三人ト思フテ居マシタガ他ノ船員ニ會ヒ
上陸シテ居ル者ハ上等兵一(山下上等兵)船員四(前記ヲ見傷者ヲ
含ム)デアルコトコ知リマシタ

軍曹ト衛生上等兵ト船長、消息ハ不明デニ等兵三名ハ即死シ
タコト、思ヒマシタ、日没後刻舟ニ五名(自分ト機関長及負傷セル
船員並ニ漁夫)同乗シ、者ニ救助ノ來リヲ待ツニシテ那覇
市ニ連絡ニ向ヒマシタ、那覇市垣ノ花園國民學校下ニ到着シ負傷者
ハ丁度來合セタ海軍士官ノ厚意ニ依リ「トラック」ニ乗セ小繰農
事試驗場ニ在ル海軍根據地病院ニ入院セマシタ

其ノ夜負傷者ノ家族ニ此ノ事ヲ傳ヘヨルトシマシタガ歌目テシタ
機関長ハ那覇市到着後家族ノ安否ヲ氣遣ヒテ自宅ニ歸ル

テ行キマシタ自分ハ神山島ニ避難セル者、救助方ヲ頼ムタ各所之間
 合々後海軍根據地司令都ニ行キ之ヲ頼ミマシタ此、時土時頃(十月
 十日)ダツクト思ヒマス夫ヨリ西原ニ住ム叔父ノ家ニ行ク途中球部隊
 本部ニ寄リ村ノ船ノ状況等ノ電報ヲ依頼シマシタ
 其ノ日夕方高地ニ登リ神山島ヲ見ルト刻舟一隻及漁舟一隻が其ノ
 島ニ見エタテ救助ノ舟ダト思ヒ安心シマシタ其ノ後用事モ終リマシ
 タノ地球第一六七九ノ部隊ノ連絡所ヲ探シ十六日晝頃連絡所ニ行キ其ノ
 給養ヲ受ケナガラ業務ヲ援助シ十七日朝那霸發漁船光勇丸ヲ販
 村シマシタ

六、結局本遭難ニ依ル狀況ハ前記ノ通りテ自分等ノ目撃者シタ範圍ニ
 デハ尤記ノ者ハ銃撃ヲ依リ即死或ハ負傷シテ海中ニ沈ニダセ
 ノト思ヒマス

豫備役 陸軍軍曹 長井 治

豫備役	陸軍衛生上等兵	河野 堯衛
第三補充兵役	陸軍二等兵	山田 胤也
同	同	遠藤 正元
第三國民兵役	同	宮川 次光

交關丸船長

計六名

右ノ通り狀況ヲ報告致シマス

昭和十九年十月十七日

右

山下 廣 眞 順
 新城 眞 順



1
20万

慶良列島



島

島

本島

本島

本島

本島

尻

郡

本島
本島

沖



死亡確認書

死亡確認書

海上挺進基地第三大隊

第一中隊 陸軍二等兵 遠藤正元

一 生死不明トナリタル日時場所

昭和十九年十月十日十一時三十分頃

油繩縣高尾郡神山島附近

二 生死不明トナリタル前後状況

昭和十九年十月十日部隊、平常、通、漁船交開丸(曉)

第六一六八部隊徵用船ニテ部隊配屬中、モ、ヨ當日、

連絡船(那覇)一渡嘉敷島間トシテ連絡長山下上等兵

ヨ乗込マシメ八時三十分渡嘉敷港ヲ出帆セシム

同港前面成島ヨ南ニ廻リ前島西南ニ至リ那覇市奥狀

アル情況ヲ眺望シ一時前島南端附近ニ停船スル該方面

ニ危険ナルト判断シ出發同島南端ヨ東ニ向ヒ航行中此

、頃ヨリ空襲ナラント知り一應待避スバ、前島東方ノ北ニ向
 同島北端ニ近キ沖島ニ投銃約四十分間徹候ヲ窺ヒ然レ
 ニ敵機來襲、徹候ナリ且任務ニ基キ長井軍曹ノ出沒及
 督勵ニ依リ出港セリ

神山島附近ニ至リヤ那覇市ノ状況愈々明瞭トナリ之ニ
 近接、危險ヲ察シ同島近、投銃ス時三十一時三十分頃ナリ
 此、頃ヨリ同船敵機ノ攻撃ヲ受ケ尚敵ハ十六時頃マテ神山
 島及附近ニ反復銃撃ヲ空員施セリ幸ナクシテ同島ニ避難セ
 ル渡嘉敷村兵事主任新城真順、同夜漁舟ニ便乘シ那
 覇ニ至リ海軍根據地司令部及第三十三軍司令部ニ此狀
 況ヲ報告救助ヲ依頼ス
 山下上等兵、神山島ニ一夜ヲ明シ十一月十七時頃救助セリ
 那覇ニ至リ十三日歸隊ニ兵事主任、同月十七日歸村ニ
 別冊、如ク報告セリ

尚當日、察沿者及任務尤、如ク

業務連絡(入院患者被服取扱方)	陸軍軍曹	長井 治
連絡長	陸軍上等兵	山下 廣見
入院患者ノ護送	陸軍衛生上等兵	河野 堯衛
患者	陸軍二等兵	山田 胤也
同	同	遠藤 正元
同	同	宮川 次光
渡嘉敷村兵事主任	同	新城 真順

外ニ船長一機長一船員四 計十三名

因ニ當日十時十分頃ヨリ渡嘉敷島ニ空襲アリ數機ノ編隊ヲ
 以テ反復銃爆撃ヲ加ヘ十六時頃迄繼續セリ此、為本島及附近
 ニ在リ、船艇ハ悉ク攻撃ヲ受ケ渡嘉敷港ニ入港シ、漁船三隻
 炎上沈没、船員中即死一重傷一(同日死)輕傷一、出沒
 三採リタル搜索手段

十月十一日三港設電第三四號ヲ以テ那覇出張中、西村大尉ニ交關丸、安否ヲ照會セリ之ニ對シ第三十二軍司令部ヨリ球醫電第三三三號ヲ以テ三港本島各病院並ニ患者療養所ニ收容シテアラザル旨返電アリタリ

十月十二日軍司令部ヨリ球參電第一〇五號ヲ以テ交關丸、神山島附近ニテ遭難ヲ傳ハ救助方告知アリタルモ當部隊ニ於テ船艇全部ヲ失ヒ救助不能ニ付軍ニ於テ救助方依頼スルト共ニ其旨那覇對ニ公張中、西村大尉ニ下命ヲ依頼セリ(三港設電第三三號)十月十三日山下上等兵歸隊同十七日當村兵事主任歸村其報告ニ基キ十月十九日植原主計中尉以下七名及十月二十日三石准尉以下六名、現地ニ向ハシメ之ガ搜索ヲ實施セリ尚十月二十日渡嘉敷島ニ登陸十月二十三日前島ニ氣体、死体漂着ニ檢視シタルモ何レモ當隊ノモノニ非ズ


四、死亡確認、理由

神山島附近ニ投錨後忽チ敵機ノ攻撃ヲ受ケ即チ各自海ニ投ジタルモ既ニ船ハ鐵網ヲ斷タレ漂流シテ七八回銃撃後敵機一時去リシレ階長井軍曹、河野上等兵船ニ上リ偶々積載中ノ木箱ヲ海ニ投ゼリト(山下上等兵船側海中ニテ目撃ス)游泳ニ當リ浮カテ得ントセルモノ、如此、時船長室ニ休養セルメアリシ入院途中、患者山下三等兵以下三名横臥、儘全身血ニ染ミ在リト見タリト謂フ、即チ疾病ニ衰弱セル肉體ニ氣力亦伴フズ遂ニ待避、機ヲ失シ銃彈ヲ蒙リシナラン、敵機再ビ迫リ長井軍曹等海ニ投ジ木箱ニ頼リ岸ニ向ヒタリト、當時附近、潮流ハ東北流ナルモ、如ク遭難現場ヨリ島ニ向テ之ニ逆行ヲ免カズ利ハ浮カテ得ントセル木箱ハ潮流ハ逆行ヲ益々阻害シ爲ニ漂流ノ状態ニ在リシモノト察セラル共ニ游泳中、山下上等兵、徒手ナリシタメ此、束縛ヲ免カレタルモノ、如ク遭難スル得タ、而シテ潮流、儘ニ浮游シテ長井軍曹

河野上等兵ハ爾後數次ニ巨シ銃撃ヲ受ケ遂ニ創傷ヲ受ケ力盡キ海没セシモノナラン尚船上ニ在リシ山田二等兵以下三名ハ第一回ノ攻撃ヲ受ケシ際受傷身體ノ自由ヲ失ヒ漂流ト共ニ刻々沈没スル船ト運命ヲ共ニシタルモノト推定ス
右ノ事實ハ生還セル山下上等兵及渡嘉敷村兵事主任新城真順ノ報告並ニ搜索ニ當リタル楠原主計中尉及三石准尉ノ報告書ニ徴シ明カリ即チ前記五名ノ死體ハ發見セザルモ死七セルニ相違ナキモノト認ム

右確認ス

昭和十九年十月二十六日

海上挺進基地第三大隊長 鈴木常良 

參考

搜索ノタメ採リタル措置

一 三港設電第三四號(十月十一日一七一。發)

十日八時渡嘉敷發連絡船交開丸ニ依リ入院患者及サ護送者等長井軍曹以下六名貴地ニ向ヒシタリ到着セリヤ返

(西村大尉宛一球第一六七九。部隊連絡所氣付)

二 球參電第一〇五號(十月十二日一〇五。受)

昨十日十時三十分頃第三港灣設定隊所屬漁船交開丸ハ神山島附近ニ於テ敵ノ爆撃ヲ受ケ沈没シ第三大隊入院患者三名衛生兵三名村役場兵事主任及船員七名計十四名内六名神山島ニ上陸シ残り八名沈没船ニスガリタルマ、南方ニ漂流中ナル由村役場兵事主任神山島ヨリ丸木船ニテ那霸ニ上陸報告セリ至急貴隊ヨリ救助船ヲ派遣サレ度(那霸)健在ナリ舟艇ナキ